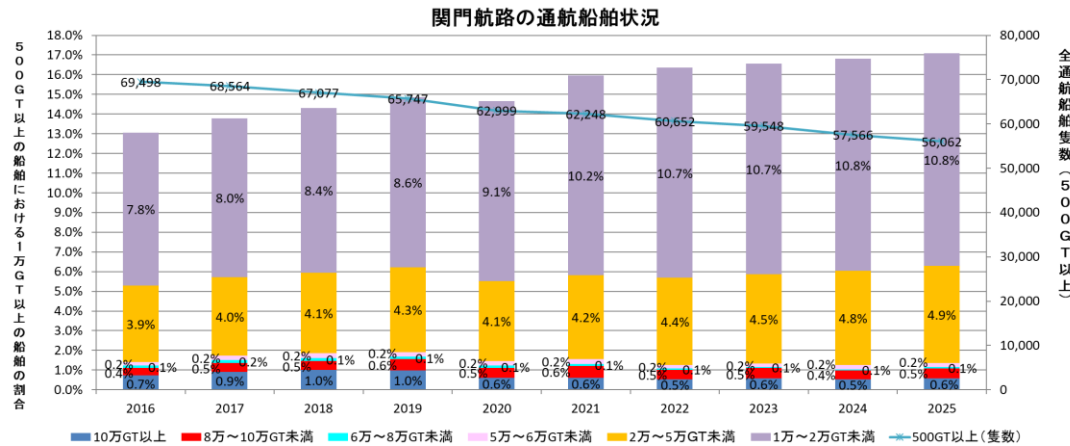


◆関門航路 航勢詳細(2025年確定値)

- 関門航路を通航(通過・入出港)する船舶(500GT以上)は減少傾向であるが、20,000GT以上の大型船[※]の割合については微増ではあるものの年々増加の傾向が見受けられる。
- 2020年の大型船[※]の減少は、新型コロナウイルス感染拡大の影響と考えられる。
- 2025年の通航状況は、船種別で貨物船、コンテナ船が約半分を占めている。外内貿別では外貿が54%、通過・入出港別では通過船が67%を占めている。

※現行の航路水深-12m(通航可能最大喫水-11.4m)では満載での通航は困難なものを示す。



- 20,000GT以上の大型船で見ると、通過が約70%を占めており、貨物船・コンテナ船が約62%を占めている。
- 物流コスト削減をはかるため、関門航路を利用することで輸送距離と時間の短縮を図っているものと考えられる。

